

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:2022年2月28日

事業所名:リチエルカ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	スペースに限りがあるが、パーテーションを用いて工夫している。	はい: 66. 7% どちらともいえない: 22. 2% いいえ: 5. 6% わからない: 5. 6%	より、レイアウトの柔軟性を個々に合わせて行えるようにする。広く使えるように工夫する。
	2 職員の適切な配置	臨床心理士・臨床発達心理士・特別支援教育士・小児科経験を有する看護師など専門性の高いスタッフを配置している。	はい: 94. 4% どちらともいえない: 5. 6% いいえ: 0% わからない: 0%	高い専門性の職員をさらに配置し、研修していく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	視覚的構造化などの手法を使って、自閉症の特性に合わせた環境整備をしている。大学教授の指導を受けている。	はい: 72. 2% どちらともいえない: 5. 6% いいえ: 5. 6% わからない: 16. 7%	さらに個々の特性に合わせて支援ができるように研鑽を重ねる。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	レイアウトを工夫して対応している。次亜塩素酸水の噴霧やアルコール消毒等のコロナ対策も心掛けている	はい: 88. 9% どちらともいえない: 5. 6% いいえ: 0% わからない: 5. 6%	感染対策への心掛けをさらに高める。トイレについては、踏み台はあるので、利用してもらえるように明示する。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	職員全体で業務会議を行うようにしている。		デジタル・ITを積極的に取り入れ業務の効率化を図る。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	外部評価が実施できていない。		大学の教授からコンサルティングをしてもらっている。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	科学的根拠に基づいく療育等のオンラインセミナーの主催や受講を行っていた。また大学の教授に定期的にコンサルティングをしていただいた。		専門性の高い研修会やコンサルを受けられる機会を引き続き計画・実施する。
適切な支援の	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	発達検査・知能検査を中心にアセスメントを行い、客観的評価とともに保護者のニーズを聞き取り、その後計画を作成している。		より充実したアセスメントを行い、アセスメントと家族・本人のニーズを効果的に計画に落とし込めるように研鑽する。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別療育を中心に、小集団療育も行っている。PEERSプログラムも導入した。	はい: 100% どちらともいえない: 0% いいえ: 0% わからない: 0%	状況に応じて、支援計画の変更を行っていたが、より細かいサイクルでPDCAを回すようにする。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
提供 3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	大項目を18項目として、その中にさらに詳細に項目を設定している。		適切な範囲で項目を設定できているが、見直しが必要でないのか、常に検討する。
4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	計画の項目に添って、教材を作ったり、複数のカリキュラムを使い実施している。	はい：100% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：0%	教材づくりの質をさらに向上させる。
5	チーム全体での活動プログラムの立案	ケース会議を行い、見直しを常に行っている。		ケース会議がより円滑に行えるようにデジタルによる仕組化を行った。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供 ^t (続き)	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	休日の対応が行えていない。	はい：94.4% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：5.6%	休日対応のニーズがあった際、検討する。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	自閉症の特性を考えると、流動的になりすぎるプログラムの作成にはリスクを伴うが、その中でも柔軟性を支援できるように考えている。		自閉症の特性に合わせて、ベースになるプログラムを提供しつつ、個々に合わせて柔軟性をトレーニングしている。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	業務会議で、確認を徹底している。		タスクの細分化を行い、役割分担を明文化することをさらに進める。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	終礼にて、日々の振り返りを行っている。		終礼の振り返りがより効果的に行えるよう仕組化する。
	10 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	ケース会議を行い、見直しを常に行っていている。		より早くPDCAサイクルがまわるように、検討を重ねる。
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	ケース会議を行い、見直しを常に行ってている。		計画の見直しが必要であるときに、より素早く対応ができるように体制を整える。保護者や本人の意見がさらに計画に盛り込めるようにする。
	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	担当者会議への参加については、できるだけ日程を合わせて参加を心がけている。		担当者会議への参加は、今後もできるだけ日程を合わせて参加する。
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	求めに応じる形で情報提供を心がけている。		より、積極的な情報提供を行えるように計画を見直した。定期的に担当者会議を行っている学校もある。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、			
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	地域の児童発達支援センターとの関わり方が整備されていない。		連絡会などの参加を検討しているが、勤務時間外労働となるため、慎重な判断をする。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	園に在籍している利用者がほとんどであり、かつ個別療育を提供しているため、交流の機会がない。	はい：27.8% どちらともいえない：0% いいえ：50% わからない：22.2%	機会を検討する必要がある。
	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	保護者研修会等を行ったり、面談に応じている。	はい：100% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：0%	さらに、研修会に参加してもらえるように考える。また、面談の機会を増やしていくようにする。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	計画を見ながら、説明をする機会を持っている。	はい：100% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：0%	さらに、保護者の方に深く理解していただけるように説明を心がける。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	適宜提供している。	はい：100% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：0%	より、積極的に参加してもらえるよう計画をする。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送り迎えの機会に、話せるようにしていた。またメールや公式LINEを用いて、保護者からの相談に対応することを始めた。	はい：94.4% どちらともいえない：5.6% いいえ：0% わからない：0%	面談の機会をもち、共通理解がより行えるようにする。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	保護者から要望があった際には、対応している。	はい：100% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：0%	さらに、充実した相談体制の実施に向けて検討している。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	コロナのこともあり、今年は行事が実施できなかった。	はい：94.4% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：5.6%	昨年同様、父母の会を求めていらっしゃる保護者とあまりそういうものを求めていらっしゃらない保護者がいるように思う。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	迅速に対応するように努めた。	はい：61.1% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：38.9%	潜在化している案件がないか、潜在化しているニーズがないかに意識を向けて対応する。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	視覚支援やPECSの利用を行っている。	はい：94.4% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：5.6%	より、専門性を高めて対応する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	保護者の方のみのクローズドのネットワーク環境にて、情報を配信している。	はい：72.2% どちらともいえない：5.6% いいえ：5.6% わからない：16.7%	情報の配信の機会、質を向上させる。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	鍵付きの棚や、ネットワークのセキュリティなどを導入している。	はい：94.4% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：5.6%	さらにセキュリティについては、強化していく。
	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	職員に周知していたが、保護者の方との確認の方法をさらに検討する。	はい：72.2% どちらともいえない：5.6% いいえ：0% わからない：22.2%	保護者の方に周知できるようにしていく。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	避難経路の確認や、避難行動の確認を業務会議で行った。保護者との引き渡し訓練を個別に行った。	はい：88.9% どちらともいえない：0% いいえ：5.6% わからない：5.6%	実践的に避難訓練を行う。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	業務会議で確認した。児童虐待防止についてセミナーを継続する。		毎年確認する必要がある。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	契約の段階で触れている。		より具体的な事象に落とし込み、保護者と確認する必要がある。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	本年度は食物アレルギーの子どもはないが、対応できるようにしている。		対象となる利用者がいるときには、最新の注意をはらう。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内の共有の徹底	業務会議、終礼で共有している。		事例集の活用を検討する。